

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29年 11月 7日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200577		
法人名	有限会社メディカルサービス廿日市		
事業所名	グループホーム千同ひまわり		
所在地	広島市佐伯区千同2丁目6-29 (電話) 082-924-2567		
自己評価作成日	平成29年10月10日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200577-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成29年10月30日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

地域の方が交流も盛んで千同保育園（運動会ごっこや訪問行事）や子供神輿、町内の夏まつり、地域のボランティアの方（フラワーアレンジメント・大正琴演奏）に来ていただき、外出が難しい方にも普段と違う雰囲気が楽しめるよう工夫している。今年も地域の名物となるようなイルミネーションを企画している。運営推進会議では、災害時の協力体制についても話し合っている。ホームの行事として外出支援（パークゴルフ・折り鶴献納など）やご家族も参加できる外出（温泉や植物鑑賞など）、外食も多く取り入れ、季節が感じられるようしている。ご家族の方とも積極的にコミュニケーションを行い要望を日々の生活に取り入れている。また、地域の方の要望を受け「いきいき百歳体操」の開催場所を提供し、地域の資源として活用していただけるよう活動を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

この1年間の特徴的な取組みとして、第一に、「事業所と地域とのつきあい」の深化がある。即ち、事業所は「地域住民として生きる事」を大事に考え、活動目標でもある「地域との交流を大切」にしており、相互交流により良好な関係が築かれている。10月には事業所が地域包括支援センター主催の百歳体操の会場として活用され、利用者・地域住民合わせて十数名の参加を得た。一社会資源として地域貢献を進め、地域での認知度を着実に高めている。併せて、子供神輿や保育園との運動会見学・焼き芋交流会等、世代間交流も定着してきた。第二に、「人材育成」の深化がある。即ち、法人グループ内の研修体制が整備されており、本部研修や系列の近隣グループホームとの合同研修等により、職員からの提案も増え、「就業環境の整備」に寄与した結果、職員の定着率の向上に結実している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	活動目標を「地域との交流を大切にします」とし、町内会の行事（町内掃除・夏祭り・新年会など）に参加させてもらっている。また、近くの保育園とも交流を持たせてもらっている。	母体法人の理念の下に事業所のケア目標と活動目標を策定し、その達成の為に分かり易い月間目標を立て、毎朝朝礼で唱和して意識統一を図っている。また、職員個人の業務目標管理も導入され、年間目標を設定し、半期毎の個人面談により、ケアの向上に繋げるべく、日々の実践に取り組んでいる。	理念を基盤としたケア目標・活動目標に則って、具体的な月間目標を意識したケアの実践に取り組んでいるが、それらの目標を評価する仕組みが不明確である。開設から6年、新管理者で2年を迎え、例えば、定期的にその目標の達成度を検証する案等、理念・目標の深化・定着に努めることで更なる実践に繋げることを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域行事に参加させてもらっている。また、地域の方が、門松作りや餅つきに協力して下さっている。10月からは、地域包括支援センター主催の百歳体操の開催場所として地域の方が利用している。	町内会に加入し、夏祭り等の地域行事に参加すると共に事業所行事に伴う門松作りやクリスマスのイルミネーション作りの際も地域住民の積極的な協力が得られている。又、大正琴等のボランティアや看護大学の実習生の受け入れ等、相互交流も為されている。更に秋祭りの子供神輿等で地域児童との世代間交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方、身内の方、知人の方が利用を考えておられ、見学に來られたと言われた時には、相談しやすい環境にしている。また、運営推進会議で相談があれば、アドバイスをを行い地域の方を通して相談を受け今後の支援方法をアドバイスしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域の方・ご家族からの意見を職員で話し合い、日々のケアに生かしている。ご家族から、外出など希望があったときは、企画したりしている。	運営推進会議は、定期的開催され、毎回参加の利用者家族の他、地域住民代表として町内会長・民生委員・地主・地域包括支援センター職員等が参加している。事業所の現況報告や行事報告等が、参加者との活発な意見交換と共に行われ、カラオケ外出の提案がきっかけでカラオケ機器の購入に繋がった経緯がある。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議には、認知症地域支援推進員や地域包括支援センターに通知し、議事録を区役所へ持参している。	運営推進会議には地域包括支援センター職員又は認知症地域支援推進員が参加し、情報の共有化が図られている。又、区に対しては会議の議事録を持参し、次の参加案内も行っている。更に10月から、事業所が地域包括支援センター主催の百歳体操の会場として活用され、利用者・地域住民合わせて十数名の参加を得た。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>職員全体が勉強会を通して身体拘束に対する共通の認識が持てる様になっている。日中は玄関の施錠はしていないが、不審者対策として各階を施錠する事もある。</p>	<p>法人全体で「身体拘束排除マニュアル」を策定し、事業所職員は年1回の内部研修に参加して、「身体拘束はしない」必要性を認識し、具体的なケアの中で日々実践を重ねている。例えば、日中は玄関を施錠せず、センサーを設置して見守りをしているが、最近では地域的な不審者対策として各階の出入り口を施錠する事もある。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>勉強会や研修の資料により職員は、虐待について理解している。日常的にもケアの内容について虐待に当たらないか注意を払っている。職員間でも入居者様への対応に目を配り虐待防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>研修や資料を通じて「権利擁護」について理解しており入居者様の状態を日頃から充分理解できるようコミュニケーションを図り必要と思われる入居者様には、制度の紹介をし、相談をしながら活用できるようにしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時、疑問や不安な点にお答えし、十分に説明したうえで、納得・理解をして頂ける様努めている。利用後も変更などある場合は、その都度、話しをして納得していただける様、努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ケアプラン更新時には、職員と話が出る時間を設け、意見や要望を聞いて日頃のケアに反映できるようにしている。また、運営推進会議や家族会の際には、情報を伝えご家族の意見をいただいている。尚、玄関にも意見箱を設置し誰でも記入出来るようにしている。</p>	<p>運営推進会議には毎回2～11名の家族が参加し、活発的な意見交換がなされている。又、年1回の家族会も機能している。その他、介護計画更新時や面会時等に意見・要望を述べる機会もある。例えば、家族の要望で利用者の転倒や介助スペースを考慮して、居室内の家具の配置の工夫や赤外線離床センサーを設置した経緯がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のスタッフ会議にて職員の意見・要望を聞く機会がある。また、その他でも随時聞いてもらい言いやすい環境にある。	毎月のスタッフ会議、不定期のフロア会議、毎週の法人部長・看護介護部長来訪時、介護計画更新時のケア会議開催時その他、随時に職員の意見、提案を受け付け、迅速な対応が可能な体制となっている。職員の意見・要望により、秋の行事の企画が決まったり、職員が介護休暇の取得後、職場復帰に繋がった経緯がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課にて個人努力や目標について詳細に聞きとりを行っている。勤務も職員の体調を考慮してくれ、安心して働けられる環境にある。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人本部・外部からの研修の案内は、職員全員が見る事が出来るようファイリングなどしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同区内の同業者間でネットワーク形成し、勤務時以外に勉強会、交流会に参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	関連法人の相談員と協働し今まで関わって来られたケアマネから情報を頂いたり、入居される前に面談をし、生活歴などの情報収集を行いご本人・ご家族が安心してもらえるよう話し合いをし、信頼関係を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用前には、ご家族やご本人に見学に来て頂き、説明すると共に要望や、不安な事など聞き取りを行っている。ご家族との関りを大切にし何でも話しやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	その都度、お話をさせて頂き、その時に必要と思われるサービスを選択し提供できるよう努めている。訪問歯科等、法人外のサービスも利用している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	認知症という病気を理解するよう努め、共に暮らしていくという意識を持ちながら、ケアにあたるよう努めている。時には、ご利用者様から教えて頂いたりしながら、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族を支援される一方の立場には置かず、ご利用された時点から、ご家族の置かれた状況に気を配りながら、可能な限りの支援をして頂いている。日頃から、面会時に様子を伝えたり、何かあったときは、電話で報告を行い相談させてもらっている。また、ご本人の歩んできた歴史など聞き、支援に役立てるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご利用者様が通っておられた理美容に通えるよう、ご家族と協力しながら支援している。奥様に会いに行く機会を作ったり、ご自宅の前を通り様子を見るなどご本人の思いにより添えるように支援している。また、ご近所だった方がボランティアに毎月来て下さり関係が継続できるよう支援している。	「気軽に訪問できる事業所作り」「地域との絆」を大事にし、利用者との会話や生活歴を参考に家族の協力で、美容院・墓参り等の外出や外泊を通して、馴染みの場所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に支援している。それらは生活行動記録等に残し、情報共有をしている。昔通っていたスーパーに立ち寄った例もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	家事活動や趣味活動など、入居者様の個々の得意な事をして頂きながら、お互いに褒め合う気持ちや感謝の気持ちを持って日々楽しく仲良く生活して頂ける様に職員が見守っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	体調不良や骨折などで入院が長引いている入居者様は時々職員が面会に行き様子をお伺いする。ご家族様にも連絡をし不安な事や心配事などがあれば傾聴している。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で出来るだけ会話をし、ご本人の思いや希望などをお伺いしている。意思表示が難しい方も毎日の表情やご家族からの情報などからご本人の意思を汲み取る様に職員は努めている。	利用者毎に担当を決め、職員は利用者の気持ちを大事にしながら、ゆっくり話す時間を作り、その方の行動を理解する様努めている。それ等の情報は生活行動記録に残し、共有している。又、意思疎通困難だが乗乗時に表情をゆがめたり、声が出る利用者に対して、声掛けをしっかりと介助方法に配慮して不安軽減を図った経緯がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時の基本情報だけでなく、継続的に日々の会話の中やご家族・面会に来られたご友人などからも生活歴などの情報収集を心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の会話は記録し、毎日の生活の中で、入居者様が普段とは異なる様子の時などは職員の間で皆が共有出来るようにし、職員間で情報交換をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>職員はご本人やご家族の思いを日頃からお伺いし、ご希望やご要望を把握するようにしている。少なくとも3か月に1回カンファレンスを行い職員間で意見交換を行い、入居者様の必要なニーズに沿えるよう努めると共にご家族・ご本人からも要望を聞き個々のケアプランを作成している。</p>	<p>利用者毎の担当職員が原則3か月毎、モニタリングを行い、計画作成担当者が集約後、カンファレンスで計画見直しを行う。モニタリングは各短期目標に沿ったケアの実施を毎日点検し、「生活行動記録」に実施できなかった理由を記録している。昼夜逆転のある利用者に対し、経験を活かした風船バレーの導入で改善を見た例がある。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>入居者様の日々の気づきや出来事は共有ノートに記載し、職員間で共有している。生活の記録はケアプランに沿った記録が出来るよう毎日にケアの実践に職員皆が努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>季節のイベントや外出やボランティアの方や地域の方の協力を得て、既存のサービス以外の提供も出来るよう取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の夏祭りの参加や保育園の園児たちとの触れ合いや、子供会の神輿が来たりしている。年に一度はグループホームでの家族会を開催し家族間の交流も図っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>希望があれば歯科医は訪問で受診出来る様にしている。ご本人やご家族の要望でかかりつけ医への受診も継続して頂いている。</p>	<p>希望があれば、従前の主治医の継続も可能だが、基本的には、母体の協力医療機関で全員毎月1回、定期受診を行っている。週に3日勤務の看護職員や母体の協力医療機関から週に1回の訪問看護、協力歯科医療機関から歯科衛生士の訪問もあり、適切な医療を受けられる体制にある。その受診情報は訪問看護記録等で共有をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	職員に看護師がおり、日常的に相談している。訪問看護師にも訪問看護記録を利用し、日常の気づきや情報交換、共有に努めている。訪問看護師から担当医へ報告や相談してもらい、必要時は受診できるように連携体制を整えている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	ご家族に担当医から病状や治療方針についてその都度説明が行われご家族やご本人の意向を聞かれている。相談員から報告があり心配な時は、直接ご家族へ、電話などで話し、安心して頂けるようにしている。気になることは相談員に相談したり、看護部長へ相談するなど協力しながら行っている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	家族会や運営推進会議のときに、終末期のあり方について、説明を行っている。また個別には、その時々に関心についての方針を話し、本人・ご家族の意向を踏まえ、主治医や看護師と連携をとりながら、できるケアを行っている。	利用約款に「重度化した場合に関する指針」「看取りに関する指針」を明記し、家族に説明し、了承を得ている。看取り対応の際は、改めて書面にて同意を得る。昨年10月の1件を含め、過去に数例の看取りを経験している。重度化した際には、本人・家族・医師と話し合いを行い、できる範囲で適切な支援を行う考えである。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	緊急時の流れや対応について、その都度話し合いをし、対応できるようにしている。個々の病状について注意しないといけない時などは、個別に対応方法を決め、職員が把握できるようにしている。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	避難訓練を毎月行い全職員がその方法を身につけられるように取り組んでいる。地域の方からは、いつでも協力しますとの言葉を頂き実際に避難訓練で見守りをして頂いている。	消防署は適宜立ち会い、職員・利用者も参加して毎月避難訓練が実施されている。夜間想定や火元不明等、様々な条件下でも対応できる様、実践的な内容となっている。又、地域との協力体制も整備されており、自動火災通報装置には地域協力員の電話番号も登録され、火災発生時には近隣住民も2次避難誘導を手伝う体制ができています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入浴や排泄ケアなどは、お一人お一人行い、ドアを閉めるなどのプライバシーに配慮している。ケアの際は、毎回お声掛けをし、尊厳を大切にしよう努めている。	職員の3/4が介護福祉士の基礎資格を有し、尊厳を意識した声掛けから始めるケアに取り組んでいる。又、職員自身の普段の行動を振りかえり、ケアの見直しにつなげる取り組みとして、サービス向上委員会が「職員アンケート」を実施しており、その中にプライバシー保護の項目も含まれ、その集計結果を現在検証中である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活の中で、本人が思いや希望を表したり、自己決定できるような声掛けをしている。散歩、買い物、外出、外食等、本人の意向を尊重し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員側の決まりや都合を優先せず、一人ひとりのペースや思いを大切にしそれに沿ったケアを実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の意向に沿って洋服を選んで頂いたり、髪カットをお願いしたり身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	嗜好に合った献立を考え食べやすい様に工夫をしている。庭で作った野菜を収穫したりできる範囲での食事の準備や片付け等も行っている。	当初の情報や食事の中で利用者の嗜好を把握し、献立係がそれを反映・工夫をしている。庭で収穫した野菜や果物が食卓に上ることもある。利用者は、食材の買い出し、調理の下準備など役割に応じた手伝いを職員と共にしている。又、時には寿司・甘味処等の外食を楽しんだり、家族と弁当持参のピクニックを楽しむこともある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食べる量はお一人おひとりに見合うよう調整している。水分は日に2回のおやつ時、3度の食事時入浴後のほか散歩後など適時お出ししている。水分量の少ない方は、記録し把握できるようにしている。ご本人の好きなジュースを提供したり、ご本人に選んでもらったり工夫している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>3か所の医院による訪問歯科をそれぞれに週1回利用され口腔ケア、口腔マッサージ、歯茎の治療やアドバイスを受け一人ひとりに応じた口腔ケアが出来、良い状態が維持できている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄に関するテーマで11月に勉強会を計画しており、排泄のメカニズムを学習し入居者様の排泄の自立に役立てたい。</p>	<p>トイレでの排泄を促進するため、排泄一覧表等で各人の排泄パターンを把握し、夜間もトイレ誘導をしている。利用者の体調によっては、水分摂取量と排尿量の管理を行い、介護計画に繋げている。又、骨折で入院していた利用者に排泄時にトイレに行ってもらおうと、起立後、10秒の立位保持を立案し、移乗能力が改善した例がある。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>こまめな水分補給に加え、野菜をしっかり取り入れた献立となっている。運動不足にならないよう体操や廊下歩行、散歩にお誘いしている。便秘をされる方には主治医からの薬で調整している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>できるだけ入居者様の希望に沿って入浴して頂いている。(1番風呂をご希望の入居者様には配慮させて頂いている)</p>	<p>少なくとも週3回、10～15時の入浴を基本とし、お風呂嫌いな方には足浴を勧める等、状況によって柔軟に対応している。各階での入浴にとらわれず、他階で気分転換をしたり、浴室の窓を開けて山の移ろいに季節を感じたり、ヒートショック防止の配慮や日帰りの湯来ロッジ旅行等で、入浴を楽しんでもらえるよう心掛けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>一人ひとり生活習慣やその時々 の状況に応じて休んで頂いてい る。廊下の電気が明るくて眠れ ないと言われる方にはドアの窓 を布で塞いだりして対応してい る。寝返りが困難な方へは定期 的な体位交換を行って気持ちよ く眠って頂いている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>一人ひとりの病名、内服薬、用 法、用量を記載した一覧表を行 動記録のバインダー1枚目に閉 じて常に見られるようにしてあ る。副作用記載のしおりと処方 箋は個別にファイルしており、 すぐに見られる位置にある。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換等 の支援をしている。</p>	<p>張り合いや喜びのある日々を 過ごせるよう一人ひとりに合っ た役割では洗濯たたみやお膳 拭き、ゴミ出しの手伝い、畑の 水やり、メダカのえさやりなど してもらっている。楽しみごと では散歩や訪問パン屋さん、 買い物などを支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所でも 、本人の希望を把握し、家族 や地域の人々と協力しながら 出かけられるように支援してい る。</p>	<p>近所への散歩やホームの庭や 畑の散策を日課としている。ほ ぼ寝たきりの方でも食事の後 にわずかな時間でも戸外へお 連れしている。地域の夏祭り、 秋祭り、保育園の運動会等に 参加したり、家族同伴で日帰り 温泉旅行や植物園や宮島への 外出は恒例となっている。</p>	<p>普段から近所の公園等への散 歩を楽しんだり、季節の外出 行事で、紫陽花見学・花見・ 紅葉狩り・初詣等に行く他、 家族の協力も得て、普段は行 けないような場所での日帰り 温泉旅行・植物公園ピクニック 等、「非日常」を楽しむことも ある。又、大型商業施設での グルメや法人系列の通所事業 所のイベント参加も楽しみ の一つである。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの 支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つ ことの大切さを理解しており、 一人ひとりの希望や力に 応じて、お金を所持したり 使えるように支援している。</p>	<p>ご家族の了解を得て、ご自分 で管理できる方には所持して 頂き、買い物で使って頂いて いる。管理が困難な方には 立て替えて買い物して頂いて いる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>電話を希望される方にはかけて差し上げお話ししてもらっている。携帯電話を持たれておられる方で操作でお困りの時はお手伝いしている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用空間は入居者様の混乱を招くような刺激は無く落ち着いた雰囲気であり、リビングでは居心地よく過ごせるようソファやマッサージチェアを設置している。壁には季節を感じられる手作りのカレンダーや飾りを施している。</p>	<p>各階はその明るさに応じて、屋内の色調に変化を持たせ、調和を図っている。リビングのマッサージチェアで寛いだり、食事中はテレビを消し、穏やかな音楽を流して誤嚥防止の配慮も為されている。足底がしっかり床につくように組み合わせられたイスとテーブルも、既存のグループホーム開設の経験が活かされた設えとなっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビングや廊下にソファや椅子、マッサージチェアを置いており、独りになれたり気の合う方と並んでお話しできるようにしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>使い慣れた家具を持ち込まれたり、ご家族の写真を飾られたり、趣味でご愛用の楽器や猫の人形を飾られたり、居心地よく過ごせるように工夫されている。</p>	<p>居室にはエアコン・洗面台が設置され、ベッド・小物等、使い慣れた物や家族の写真・カーブのポスター・愛用の楽器等、好みの物を持ち込み、居心地よく過ごせるようになっている。又、利用者によっては、家族の要望により転倒防止のため、ベッドに赤外線離床センサーを設置し、拘束廃止に向けた側面支援を行う時もある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>安全に移動できるよう廊下、トイレ、浴室、玄関等に手すりを設置しており、リビング、廊下、トイレはシルバーカーが通りやすい広さとなっている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム千同ひまわり

作成日 平成29年11月11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	法人の理念を踏まえて活動目標として挙げているが、目標達成度の評価がなされていない。	日々活動目標の意義を考えながら地域の一員として利用者様のケアを行う。	年度初めには各職員に対し目標が達成されたか聞き取りを行い、結果を文書化し周知できるようにする。	6か月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。